



去年今年源流いまも沖へ注ぐ
 放心のかたちに置かれ皮手套
 螺旋とは美しき曲線りんご剥く
 真つ赤なセーター八十路の反抗期
 紙漉に太初の波のありどころ
 死語新語冬木はほのと光り合ひ
 括られて冬白菊の忍び色
 付度も想定外も寒晒し
 鉄棒は独りくる場所冬夕焼
 きつちりと白足袋履いてからの事
 遙かより待ち人と知る冬帽子
 消え失せしより狐火と思ひけり
 揺らぎたる炎に昏み牡丹焚
 小六月布巾に赤き返し針
 鮫鱈に海を咬ませて吊しけり

辻 美奈子
 細川 洋子
 辻前富美枝
 町山 公孝
 菊川 俊朗
 大畑 善昭
 吉田 政江
 千田 百里
 林 昭太郎
 小野 寿子
 栗原 公子
 大沢美智子
 大川ゆかり
 宮内とし子
 兵藤 恵

綿虫の風を配りに行くやうな
 見守りてゐるにも力冬木の芽
 淡海なるさざれさざ波鴉の笛
 凍滝に未だ決心のつかぬ水
 からからの海草をくべ番屋の炉
 作法よき手に開かるる障子かな
 凧や梵字となりて烏とぶ
 栗の飯淋しき鬼と喰らおうか
 ほどく紐括る紐あり十二月
 しぐるるや音なく灯る楽器店
 石落咲いて土日は文の届かぬ日
 神域に入る寒月の青みかな
 風音を落としきつたる枯木かな
 裸木の並木一本つつ孤独
 蓼蓼と佐渡を呑み込む鯉起し

和田 満水
 川高郷之助
 鈴木 齊夫
 平松うさぎ
 栗坪 和子
 中村 重幸
 小形 博子
 村上 葉子
 関根 瑤華
 小林 陽子
 須賀ゆかり
 澤田 英紀
 坂下 成紘
 枇杷木 愛
 里村 梨邨

